



評価について

Q 通知票への記入の仕方について、具体例があれば知りたいのですが。



A: 『道徳の礎』をご活用ください。

A: 各学校に配付されている「道徳の礎」には、評価についての基本的な考え方や進め方、留意点、例文などが掲載されています。(令和元年度 道徳の礎 P.5~P.9)福島県教育庁義務教育課 HP からダウンロードできます。



道徳科の評価を記入する上での留意点を教えてください。

県内7地区で開催された「平成30年度の『特別の教科 道徳』の実施に向けた地区別研修会」では、評価の演習に取り組み、評価文の事例検討や作成に取り組みました。ここでは、研修会を通じて分かったこと、学んだことを列記します。是非、評価を行う際の参考にしてください。

○ 平成30年度「特別の教科道徳」の実施に向けた地区別研修会の研修から

〈道徳科の評価記入上の留意点〉	
学びの事実を基に、飛躍させず、盛り込みすぎず、比較せず、分かりやすく、行動の記録と区別して、文章で記述する	
○ 研修会を通じて分かったこと、話題になったこと	研修会を通じて分かったこと、話題になったこと
「学びの事実を基に」	なぜそう書いたか、根拠が大切です。「児童生徒の発言」や「学習の様子」「ワークシートやノートへの記述」等を記録・累積しておくことが大切です。
「飛躍せず、盛り込みすぎず」	記録しておいた「発言」や「学習の様子」「ワークシートの記録」といった根拠を曲解して記述したり、数多くの根拠を記述しすぎたりすると誤解を生じ、伝わりにくくなります。
「比較せず」	「誰よりも優れています」といった表現は、一見最大の賞め言葉に感じますが、個人内評価の基本的な考え方からはふさわしくありません。同様に、「以前より理解できるようになった」という表現も誤解を招く恐れがあり、気を付けなければならない表現です。
「分かりやすく」	「道徳的価値の理解」「道徳的判断力の高まり」といった専門用語は、児童生徒や保護者には分かりづらい言葉です。児童生徒や保護者の目線に立って、分かりやすい表現をこころがけたいものです。
「行動の記録と区別して」	あくまでも「道徳科」としての授業の評価です。行動に表れている道徳性の記述は、「行動の記録」に記述しますので、明確に区別してください。

以上の考えを基本としながら文章表現で記述します。各学校において、どのように記述するか教職員で共通理解を図りながら、児童生徒一人一人を受け止めて、認め、励ます評価の具現化に取り組んでください。

【道徳の礎 P.7】

道徳の評価を記入する上での留意点

- ・学びの事実を基に
- ・飛躍させず、盛り込みすぎず
- ・比較せず
- ・分かりやすく
- ・行動の記録と区別して

【道徳の礎 P.7~8】 評価文例



○ 研修会参加者が作成した評価文

- 「親切・思いやり」や「自然愛護」について考える授業では、友だちの発言にうなずきながら共感して聞いたり、根拠に基づいて自分の意見を発言したりしていました。友だちと考えを交流する中で、友だちの考えをもとにさらに深く考え、自分の考えを書いてまとめることができました。その考えについては、道徳ノートをご覧いただいで、ご家庭での話題にさせていただければと思います。
- 「○○○」では、登場人物の役になりきって、くじけず最後まで努力することの大切さを表現しました。最後までがんばるためには、周りの応援も必要であることに気付くことができました。
- 「○○○」の授業では、友達の発言にうなずきながら、熱心に耳を傾ける姿が見られました。話し合いを通して、きまりを守る大切さを理解し、これからの学校生活に生かしていこう、という意欲が高まりました。
- 「○○○」の授業では、親切・思いやりの大切さについて考えました。友だちとの話し合いを通して、本当の思いやりとは、相手の気持ちを大切にしながら、自分にできることを行うことだと気付くことができました。
- 「○○○」の授業では、人間も自然界の一員であることを忘れてはならないという意見を持ち、自然愛護について自分事として考えることができました。友だちの意見を聞いて、自分の考えをさらに深めようとする積極的な姿勢が見られました。
- 道徳の授業では、規則や友情、国際理解など、様々なテーマについて学び、自分の考えを発表できるようになりました。友達の考えをよく聞き、意見を交換する中で、自分のことだけでなく、相手のこともよく考えて問題の解決に臨む姿が見られます。
- 「○○○○○」の授業では、自分の考えと友だちの考えを比べたり、自分だったらどうするかを考えたりする活動を通して、最後まであきらめずに取り組むことの楽しさを感じていました。